

目次

1 高次脳機能障害を学ぼう

1. 高次脳機能障がいを学ぼう

第16回 注意障害の訓練①

前回までにトレーニングを始める前の事前段階・準備について配信しました。今回からは注意障害の訓練についてご紹介します。

まずは、メールニュース第3号の復習です！注意にはいろいろな種類がありましたね。まずは、どの部分が苦手かを確認することが大切です。

①持続性注意（続ける力）

ある対象に一定以上の注意を向け続ける力です。

②選択性注意（見つける力）

多くの情報の中から必要な情報だけを見つけて出す力です。

③転導性注意（別のことに注意を切り換える力）

ある対象に向いている注意をスムーズに別の対象に向ける力です。

④注意の分配（複数のことに同時に注意を向ける力）

複数の対象に同時に注意を向ける力です。

確認の方法は大きく分けると2つあります。1つは専門機関等で行う**検査**です。もう1つは日常生活場面や訓練や仕事場面の**行動観察**です。

今回は、行動観察についていくつか例を挙げてご紹介します。

①持続性注意（続ける力）

飽きっぽくなった。疲れやすい。姿勢が崩れやすい。

周りの音や人の気配が気になって、注意が逸れやすい。

②選択性注意（見つける力）

買い物に行っても目当ての物を探せない。

人ごみの中など騒がしい場所で会話ができないし、疲れやすい。

③転導性注意（別のことに注意を切り換える力）

休憩時間が終わっても遊ぶのを止められない。

何かに取り組んでいると声をかけられても気づくことができない。

同じ発言や行動を繰り返す。情報が混ざりやすい。

④注意の分配（複数のことに同時に注意を向ける力）

簡単な作業でも、一度にやろうとすると失敗してしまう。

お皿を洗っている時はお湯が沸騰しても声をかけても気づきにくい。

元々の性格だったり、得意・不得意なことが影響していることも多いので、病気や事故に遭う前のことを確認することも大切です。前とは違う行動が観察される場合には専門機関に相談してみるのも良いでしょう。



今年の雪でいったい
何体作れるのでしょうか…